ローズバーグ日本人收容所時報
Rosebburg Times
March 19
三月十九日 金曜日 発行
第一七五号

ソロモン群島戦果

昨年末と今春の現状

マッカーサ将軍は連日日本軍基地爆撃を續けてゐるが日本軍の供給力は少しも衰へず又海軍省の昨秋より除夜までの戦果の日本軍に與へたる損失も尨大な數字を見せてゐるが今尚濠洲の脅威は減ぜずといふのが今春の現狀である。日本戦艦四十二隻又を損傷して尚右の如しといふソロモン群島の戦史は次の如しと海軍省で發表した。

(一)サボー島海戦(一九四三年八月八日より九日に至る海上西艦隊の接戦、

(二)サンタクルス島沖の米空母艦戦は同年同月二十三日＝二十五日、

(三)エスペランス岬沖十月十一日＝十二日の夜襲海戦、

(四)サンタクルス島沖十月二十六日の米空母艦再度の海戦、

(五)ワダカナル島海陸戦十月十三日より十五日まで、

(六)ルンガ岬(ワダカナル島)十月三十日＝十二月一日戦、

の六大會戦の外更に次の今春の六會戦の結果が前記の打撃の外二隻の日本軍の船舶を撃沈したといふ。

(A)一九四三年一月二十九日＝三十日のレンネル島の空海戦、

(B)二月一日の北ソロモン戦、

(C)同日のサボー島南沖第三海戦、

(D)同日エスペランス岬第二會戦、

(E)二月一日コロム・バンガラ戦

(F)同四日ライエル島南會戦

(G)同七日NGレンドバ島沖の會戦

(註)前記の十ヶ所では米軍は何時も空軍のみを使用してゐる。

日米戦は長びく

エルバン・ヘラルド・ポスト紙には去る十五日紐育発電にてUP外交記者ジョー・モリスとUP副社長フランク・バイし其標記に記者のイトとしてバーソロミウは昨年十二月に珊瑚を出發し布哇より濠洲までの聯合側の根據と普く歴訪し又モリスは昨年九月に紐育を出発して倫敦に赴き同社の欧洲部員の監理に任じたる人なるが帰来両人の注意書を比較して両人共に敢したる点は『最後の勝利は疑無きも其勝利は最も多くの人々の考へるよりも遥かに遠き日に在る』といふ意味を掲げた、モリスの記事の大要は左の如し。

『クリスマス以前に聯合國は欧洲に於ける枢軸國の背骨を挫折する機會を有するも独逸の最後の敗北までには聯合國は久しき間頑強にして代價を拂ふことの多き実戦を經ざるべからず最後の勝利は一九四四年又は其後しばらく迄には豫期せられず之れ自分が欧洲滞在六個月間に高位者全部と折衝して得たる經驗の一般印象である』云々。

次にバーソロミウの記事の大要は左の如し『珊瑚の西南一万一千哩を旅行し太平洋戦線五千哩に亘れる戦闘地点を視察し米濠指導者の言に耳を傾けたるに時日は日本を利すと指導者の言へるは至當であると首肯さるマッカーサー陸軍大将ニミッツ海軍大将ハルゼー海軍大将エンモンス陸軍中将は何れも現在の北阿遠征軍を米太平洋に向け変へれば日本を敗ることを得といふに敢す又若し明年独伊を征服せば西暦の冬に東京へ討入り戦は終るといふが將軍の説と見へる但し欧洲戦が行詰りとなれば日本打倒には五年乃至十年かかるといふは頭首將軍連大多數の意見

佛教研究會

『佛教道徳』講師　北條惠實師

本夕(金)午後七時半

第二天隊宗教堂にて

○福岡縣人集會

明土曜日午後七時より第二中隊食堂に於て福岡縣人月次集會に送別會を兼ねて開催します。

阿武山聖人會見記

マスズ通信員特信

印度ラズプタ子阿武山は有史以来數千年来の聖地であるが印度大國各階級の信者は北はアガニスタンより南は七百哩島に至るまで必ず參詣修行をする。余はこの本山マハラヤ丈に拝謁したが世界的に名を成してゐるモハンダガンヂー翁などは行者としては得道してゐない彼は尚政治に没頭して印度人の根本的救済を誤てゐると述べた人余はそれでもガンヂーを崇拝する往多數なるを語りたるに上人は自若として『然リガンヂーはあれで稚気満々たる所がある石を吞む者に解脱無し』と語った。余は更に米國に対して貴僧は何と考へるかと質問したが上人は依然沈静に答へて曰く『米人も誰も同様で當山に參詣しなくとも人々の苦難は脱し得る時も有るべし一國に対して思僧は何ら特別の期待を持って居ません』

送吟友竹内君山根君從塩途漢
收容所之擲颯州家族同居收容所
景山弓畔

勞歌曲能合東州　千里行程萬里愁
昨夏同遷嗟景物　今春分袂憶如秋
高吟莫共感風事　笑語須開寂寞憂
賢達古來猶歎別　相逢何日四分飛

送和田鳳村先生二首

離別家郷一歲過　蔭羅嶮雪共吟哦
誰言人事多代謝　況又此行感轉多

其二

別離元惻惻　再會憶家郷
吟詠言難盡　交情語更長

惜別不禁
答古生栞風先生　和田鳳村

蔭羅驟雨與君過　苦吟朋在謫居和
一年既盡東西別　再會何時語別歌

○
因はれど君が友情に二年を
たのしく月をうたひてしかな
○

別れてもまた逢ふことを楽しまん
君が清けき詩を吟ひつゝ

惜別　村田松翠

君はパロール　僕クリスタル
又の逢瀬は東京か

日照郷吟社入選句

汽車の音霞の中を流れけり　斗角
暖や壁に蒸れたる日の匂ひ　一知
雨晴れて春暖かや砂の艶　緑苔
霞より霞へと山連なれり　一星
國境やうすれ流るゝ春霞　北里
暖かや日々をふくらむ人イトビー　鳴夕
なき友の沙漠の墓標かすみけり　落風

クリスタル市行先發隊氏名

九四名

◎第五中隊　七名

◎浜　秀男（岡山）　兵頭　正員（廣島）
◎川辺惣太郎（滋賀）　河野　春市（愛媛）
◎川崎　諒策（廣島）　澤瀧　鉄藏（静岡）
角田　照夫（岡山）

◎第六中隊　十一名

秋山　道春（廣島）　芦沢　孔信（山梨）
古本　惣市（廣島）　北條　惠實（福井）
稲木豊次郎（廣島）　日下熊太郎（和歌山）
宮城島峯藏（静岡）　大島　正雄（廣島）
玉置　吉雄（和歌山）　谷口　武三（岐阜）
◎髙島　勝江（福島）

◎第九中隊　三十一名

相沢　金丸（山梨）　有本　政藏（福岡）
土居　数市（廣島）　藤井　重利（鳥取）
古屋　貞恭（山梨）　日髙　虎雄（宮崎）
稲葉　秀雄（茨城）　磯部七之助（髙知）
金柿　辰雄（熊本）　国部　昇（和歌山）
黒土　善一（和歌山）　森岡　常茂（髙知）

◎中村　健次（福岡）　小川　寶（廣島）
岡崎　一丸（岡山）　奥芝　勇（和歌山）
大下　武（廣島）　清水　鮮吾（廣島）
◎代田虎太郎（長野）　角　恕通（鳥取）
竹内　穆平（三重）　谷口　勇（和歌山）
谷口　四市（廣島）　谷本　常三（廣島）
島江　敏秀（大阪）　◎和田　正彦（宮城）
矢儀　繁（山口）　山本　光義（静岡）
山根　三郎（廣島）　保田　政人（廣島）
吉村　進（和歌山）

◎第十中隊　十六名

◎東田　春雄（奈良）
本田　峯喜（熊本）
川本　茂太郎（和歌山）
久保　秀磨（和歌山）
牧野　廣（熊本）
岡本　勝（廣島）
佐藤　只男（福岡）
山本　栄一（廣島）

◎東田　須美雄（奈良）
市川　寅吉（神奈川）
古賀　猛（佐賀）
久保　吉太（鹿兒島）
中島　静男（岡山）
大江　茂一（和歌山）
篠田赤代明（鳥取）
山下　榮二（鹿兒島）

◎第十一中隊　十四名

御所　廣（兵庫）　具志堅伸慶（沖縄）
浜口　忍（三重）　浜口　貞吉（和歌山）
早川　一正（福岡）　出野　順造（愛媛）
板倉　宇一郎（三重）　岩岡　正光（熊本）
神田　勝（福岡）　川島　登（髙知）
長崎　華（髙知）　坂本　進（髙知）
只野　武雄（宮城）　山岸　清次（愛知）

◎第十二中隊　十五名

信永　豊（鹿兒島）　池宮　長吉（和歌山）
今村　安次郎（石川）　稲葉　親保（茨城）
岩沢　正一（廣島）　鎌谷　利八（和歌山）
三橋　謙助（神奈川）　中田　重美（廣島）
岡村　直栄（廣島）　塩崎　隆吉（和歌山）
菅野　忠一（福島）　田口　善兵衛（廣島）
武田　廣次（福井）　上原　尚秀（鹿兒島）
吉村　謙作（廣島）

◎印は家族シーゴビルより移動ずみ（九名）

No. 51 A BOTTLE OF BEER

(1) Every day at four o'clock, we rush to the canteen to have a bottle of beer and get in high spirit. (2) I am one of the regular customers. (3) Each one is given a beer card. It is punched and a bottle of beer is given us when we present it with ten-cent coupons. (4) Since it is getting gradually warm, the beer tastes fine. (5) I used to feel that I missed something when I didn't have any strong drink. But now I am contented with only a bottle of beer. It makes me feel good. (6) Especially when I am tired, it makes me feel like a new man. (7) A bottle of beer helps produce a genial atomosphere in the camp. (8) In order to continue our monotonous camp life, we have to take it easy and have a cheerful and composed attitude.

一杯のビール（五一）

一、毎日四時になるとキャンテインに詰め掛け一本のビールで気炎を上げまくる。
二、自分もその常客の一人である。
三、各自に渡されてゐるビールカードにパンチを入れて廿貝ひキューポン十仙で一本だけ呑めるといふことになつてゐる。
四、そろそろ暖くなつて来たので実にうまい。
五、酒が無ければ何かしら物足らなかつた自分だが、今ではビール一本で充分だ。それだけでほんとにいい気持になれる。
六、特に疲れてゐる時などは生き返つたやうに元気づく。
七、たつた一本のビールがキャンプ内に和ごやかな空気をかもし出して呉れる。
八、味気ないキャンプ生活を送るには呑気に楽えゆつくりした気分でゐなければならない。